

6. 22もしくは、6. 23 沖縄を覚える礼拝・祈祷会をもってみませんか

今年もまた「6・23」が巡ってきます。69年前の1945年のこの日、沖縄で日本軍の組織的な戦闘が終わりました。4月1日に米軍が沖縄本島に上陸し、激しい地上戦が始まってから2ヶ月余りの間に、20万人がいのちを奪われ、そのうち半数近くが一般住民でした。「6・23」は、沖縄戦の歴史を覚える日です。

しかしその後も、沖縄の苦しみは続きました。ながらく米国の施政下に置かれ続け、本土復帰後も米軍基地の占有が続いています。それは、日本という国が沖縄に強いてきたことです。「6・23」はそのことを覚える日でもあります。

日本バプテスト連盟は、昨年に引き続き、今年もこの日を覚えて集会「6・22平和集会～沖縄の祈りに心を合わせて～」をさいたままで開催いたします。どうぞ関東のみなさん、ご参加ください。

全国各地の諸教会・伝道所等におきましても、沖縄を覚える礼拝や集会の開催をご検討ください。沖縄バプテスト連盟普天間バプテスト教会の神谷武宏牧師が、今回、この日を覚える日本バプテスト連盟諸教会のために、「沖縄の祈り～『沖縄慰霊の日』を覚えて～」(同封別紙)を作ってくださいました。それぞれの教会伝道所での6/22の主日礼拝や集会においてご活用いただければ幸いです。

現安倍政権が集団的自衛権の容認へ、そして憲法9条の破壊へと突っ走る時代のただなかにあって、沖縄の歴史と痛みを覚え、改めて戦争への否を心に刻みたいと思います。また、沖縄に重荷を負わせ続けているこの国にあって、平和を創りだしていくことへとまた一歩、踏み出したいと思います。ともに「6・23」を覚えましょう。

開催後には、その様子などを連盟事務所までお知らせいただければ幸いです。連盟 FAX048-883-1092 か、下記常務理事室のメールアドレスをご利用ください。

連盟常務理事室 joumurijishitsu@bapren.jp

御教会の上に主の豊かな導きがありますよう、お祈りいたします。

日本バプテスト連盟
常務理事 吉高叶

神よ、わたしたちに悔い改めと憐れみをお与えください。

神よ、わたしたちに慰めと希望をお与えください。

歴史の主である神よ、今年も「沖縄慰霊の日」を迎えます。沖縄戦は、対馬丸学童疎開船撃沈による子どもたちの犠牲に始まり、十・十空襲、3ヶ月以上にも及ぶ地上戦と、多くの住民が巻き込まれ、犠牲となった戦争でした。あれから69年目を迎えます。

長い年月が経過しても戦争の悲しみはぬぐえないものです。毎年、平和の礎に刻まれた名前をさすりながら涙するお年寄りの姿が映し出されます。生きていればどんな人生であったであろうかと、家族のものであれば思い描くものです。無残にも絶たれた命に無念さが残ります。戦後、その悲しみをぬぐう努力はなされてきたのでしょうか？

沖縄は、戦後、自らの涙をぬぐおうと、琉球の芸能文化を取り戻し、歌や三線、踊りや芝居を復活させ、一生懸命に「笑おう」としました。戦を忘れて前を向こうとしました。しかし戦争を起こしたこの国は、沖縄の涙をぬぐうどころか、沖縄を切り捨て27年間の米軍統治下を許し、自らは日米安保の下、日本国憲法の下で安泰に、「平和」に暮らしています。米軍基地が多くを占める沖縄は、常に米国の戦争に巻き込まれ、米兵の狂気に曝され、戦争の音、戦争の臭いが蔓延し続ける中で、「戦後」の見えぬ状況の下、沖縄の涙はぬぐわれぬまま枯れ果てています。

命の主である神よ、傷つけ合っているわたしたちの、

この世界と人々の叫びにあなたは耳を傾けてくださいます。

わたしたちも耳を傾け、心を込めて痛みと嘆きの声を聴くことができますように。

神よ、あなたは今も流されている人々の血と涙に目を止めておられます。

わたしたちも目を開き、心を込めて絶望と悲しみの姿を見つめることができますように。

神よ、あなたは慈しみをもって小さな者たちの命を守り、育ててくださいます。

わたしたちも、すべての命をあなたのものであり、慈しむことができますように。

神よ、あなたはいつも豊かな愛と赦しをもって、わたしたちを招いてくださいます。

わたしたちが、あなたの愛と赦しの力によって、和解のために働くことができますように。

神よ、わたしたちを平和のために用いてください。

聖霊によってわたしたちを力づけ、道を示してください。

沖縄は今なお、暴力の根源である軍事基地が存在し、

今また新たに差別と不条理な現状を押し付けられています。

神よ、平和を愛する人々が、勇気と希望を失わないようにお支えください。

非暴力を持って闘おうとされる人々に、なお主のお支えがありますように。

主のご栄光がさらに平和をつくり出す人々の上にありますように。

恵み深い神が、戦争の暴力、国家の権力、経済の抑圧の犠牲となった人々に癒しを、

悔い改める人々に赦しを、平和を求める人々に真実の和解をお与えくださいますように。

わたしたちの主、イエス・キリストの御名によってこの叫びと祈りをあなたに捧げます。

アーメン

普天間バプテスト教会の神谷武宏牧師による「沖縄の祈り」です。多くの方と共有していきたいと思っております。また、文中、あまりなじみの無い言葉（例：十・十空襲）は、ぜひ皆様に調べてみて、学び合ってください。

沖縄の祈りに心を合わせる働きは、多岐にわたります。ここではおもに四つの働きをご紹介します。

6.22 平和集会 (沖縄基地課題に関する協議会)

昨年に続き、6月23日の沖縄慰霊の日に合わせて、沖縄では合同祈禱会が持たれます。それに合わせて、昨年の集会(恵泉教会)に続いて、今年は浦和教会で、6.22 平和集会を開催いたします。全国にも祈りの輪が広がることを期待しています。

ちなみに昨年の集会には 92 名の参加者が与えられました。



「命どう宝の日」沖縄平和学習ツアー (日本バプテスト女性連合)

女性連合の学習ツアーも今年で7年目。続けて参加される方も多くあり、「知る・祈る・共有する」を合言葉に、ツアー実施や「祈り便」発信などの行動が積み重ねられてきています。今年のツアーは、参加者41名。昨年同様、宣教部からの推薦で参加していただく方も起こしています。また、沖縄を知り、祈るための学習資料冊子(左)も作成されました。冊子は、子どもたちと一緒に学べるよう、作られています。



「ゴスペルを歌う会」普天間基地ゲート前/首相官邸前(東京)/アメリカンセンター前(福岡)

非暴力の運動として米軍の兵士の皆さんにも祈りを届けたいという思いから、2012年秋に始められた沖縄/普天間基地ゲート前の「ゴスペルを歌う会」。その運動に呼応した者たちが東京と福岡でも起こされました。



…… 沖縄の基地前と、東京の首相官邸前と、福岡のアメリカンセンター前。連帯することによって、主にある希望に立ち続けることができる！ 小さな取り組みは、平和を実現しようとする者たちによって、これからも続けられていきます。

オバマ大統領へのハガキ 10万枚キャンペーン

アメリカ大統領や合衆国議会に意見をどう届けようか? 「10万枚の民意が寄せられれば、無視できない意見として公式に取り扱われます」と、ウチナー語(沖縄の方言)も自在に使えるニューヨーク出身の老司祭が発案してくださったとのこと。「そうだ!それがいい!」沖縄のクリスチャンが立ち上がりました。



—— 祈りはかたちとなり、ハガキ(左)が作られました。

皆さんの教会では、もうハガキを投函して下さったことと思います。

足りない分は、ダウンロード(右)して作成してください。サイン(日本語でも可)して、70円分の切手を貼って、ポストに投入!! 10万分の1の働き、ぜひともよろしくお願いします。



QRコード